

2019年2月23日

2018年度第2回学校関係者評価委員会議事録

学校法人山口学園  
ECC 国際外語専門学校  
学校関係者評価委員会

学校法人山口学園 ECC 国際外語専門学校は、「学校関係者評価委員会規定」に基づき  
2018年度第2回学校評価委員会を実施いたしましたので、以下の通り報告いたします。

- 1 実施日時 2019年2月23日(土) 14:00 - 16:00
- 2 実施場所 ECC 国際外語専門学校 1号館4階 401教室
- 3 学校関係者評価委員(ECC 国際外語専門学校 学校関係者評価委員会実施規定に基づく)

(1) 関連業界等関係者

三橋 滋子氏	一般社団法人 日本添乗サービス協会 会長
下西 由子氏	大阪セントラルホテル株式会社 ラーニング アンド デイバロップメント スーパーバイザー
小椋 圭一朗氏	社会福祉法人 日本ヘルソラ財団 副理事長
貴治 康夫氏	立命館高等学校 教員
猿木 唯資氏	済美福祉センター連合運営委員会 会長

(2) 本校関係者

瀧山 淳一	ECC 国際外語専門学校 学校長
大谷内 圭	ECC 国際外語専門学校 副学校長・教務課責任者
伊藤 功	ECC 国際外語専門学校 進学指導センター 長
木村 泰一	ECC 国際外語専門学校 学園留学生事業部責任者
川添 雅英	ECC 国際外語専門学校 学園留学生事業部副責任者
東井 喜美	ECC 国際外語専門学校 教務課副責任者
松井 治	ECC 国際外語専門学校 英語課責任者
福本 雄三	ECC 国際外語専門学校 キャリアセンター 長
洪 錫吉	ECC 国際外語専門学校 入試課責任者
斎藤 晃子	ECC 国際外語専門学校 ITライブラリー主任
三木 武志	ECC 国際外語専門学校 学園自己点検評価室室長
山本 昂輝	ECC 国際外語専門学校 キャリアセンター

## 4 報告内容

### (1)開会の挨拶

組織概要については以前まで 1 号館の内容を中心にしていたが、2 号館の留学生専門課程、日本語学科、国際コミュニケーション学科、3 号館大学編入専門課程、そして新たに 2 号館 3 号館の進学サポートとして進学指導センターを設けており、本日は各部署から報告する。本日の参加者の皆様より積極的な意見をいただきたいと考えている。

### □設置学科紹介 (2018.5.1 時点)

全体 1779 名(内 33%が留学生)

- ・国際キャリア学科 (3 年)
- ・ITライ学科 (2 年)
- ・ホテル・観光学科 (2 年)
- ・国際ビジネス学科 (2 年)
- ・総合英語学科 (2 年)
- ・アジア言語学科 (2 年)
- ・国際留学学科 (2 年)
- ・こども教育研究学科 (4 年)
- ・国際コミュニケーション学科 (1 年)
- ・日本語学科 (2 年・1.5 年・1 年)

### (2)第 1 回の検討事項の対応について

#### ○教務課より課題 3 点

##### ・3 年制コースの進捗状況

ITライ学科 2 年制課程に加え、新たに 3 年制コースを設置し、2018 年 12 月より募集を開始している。2021 年には総合英語学科の 3 年制コース設置を検討中。

##### ・教員の人材育成

様々な学生の相互理解、外部研修の推奨を行う。また、授業力検証の為に授業見学や早期学生アットを実施。2019 年度はアクティブラーニングに取り組んでいく。授業力検証にも力を入れていく。

##### ・校友会への卒業生動員

2018 年度校友会 51 名参加。2019 年度は今年度参加者の意見を参考にし、恩師からのメッセージ、学生実行委員の創設、コース別交流時間の確保を検討中。卒業生の動員については学生アットを活用し 100 名参加を目標にする。

- (貴治 様) 教員の人材育成について、アクティブラーニングの取り組みを具体的に教えて欲しい。
- (東井) 様々な形があるが、社会貢献や就職対策に繋がる授業展開を行う。また、短期的に行うものや授業内の一部分に取り入れるなど導入を予定している。
- (貴治 様) 文科省からアクティブラーニングの定義について、対話的・主体的と聞いているが、生徒が主体的に行うことを予定されているのか？
- (東井) 生徒主体型の授業を目指す。そのためには教員の関わり方から変えていく必要があると考えており、予習・復習をしっかりとできる環境づくりを目指す。
- (下西 様) 校友会について、他校でも開催の旨を聞いているが、今後どの様に広げていくのか？趣旨はすごくメリットを感じる。
- (東井) 校友会への学生の動員については課題。学生への告知を卒業前から行う。そして帰って来たいと思える内容を考えていく。意見としては「恩師に会いたい」が多かったので、そこも考えていく。
- (下西 様) 企業を通して案内などは考えているか？
- (東井) 今後検討していきたい。
- (福本) 個人情報保護の観点で企業様よりNGのケースがあるため課題だと感じる。卒業生との連絡ツールがあるので、活用していきたい。
- (三橋 様) 校友会を卒業生と在校生の交流の場にしてみてはどうか？
- (東井) その様な時間を設けていきたいと考えている。
- (小椋 様) 校友会についてはクラス単位で学生へ案内して、つながりを増やしていくことが大切を感じる。教員の参加は重要と思われるので積極的に取り組んで欲しい。また、3年制は開設にあたって教員の確保は課題だと感じる。なにか手段はあるのか？
- (東井) 3年制課程の1年次カリキュラムは英語の授業が80%。ECCの他、校より英語講師を招く+現在勤務していただいているネイティブ講師をチームとして動かしていく。
- (猿木 様) 卒業生アプリとは？
- (東井) 在籍学生との連絡ツールとしてアプリを既に導入している。これを卒業生にも対象を広げて運営する予定としている。

## ○進路指導課より課題 2 点

### ・語学系コースの企業連携の必要性について

(語学系—総合英語、アジア言語、国際留学 総数約 180 名)

語学活用での就職のため、出口は幅広い。学生個々の能力を踏まえた業界企業研究が必要。その支援として学内に企業を招き寄せ、説明会を実施し理解を深める。2020.3 卒生対象には 7 業界 26 社にて行っている。2019 年度はインターシップに注力し、入学年次に就職意識向上、マナーを身につける。具体的には韓国語専攻にてホテル・ブライダル業界でのインターシップ、航空会社での 2 日間就業体験を予定している。

### ・就職後の定着率の把握について

企業訪問時、校友会実施時に確認したが、現状全体の把握に至らなかった。2019 年度はアプリを活用し、確認に注力する。その内容を踏まえて対応していく予定。

(貴治 様) インターシップ先で色々な業界がある中、ホテル・ブライダル業界で実施するのはなぜか？

(福本) 語学はもちろんだが、待遇マナーを身につけたいと考えるため。

(貴治 様) 韓国語専攻以外は？

(福本) まだできていない。まずは韓国語専攻にて実施し、今後他コースに広げていく。

(下西 様) インターシップの期間は？

(福本) まずは短期間でのインターシップを検討、その後アルバイト形態をインターシップの扱いとして推奨していく。

(三橋 様) 他の学校からインターシップの要請が結構来ている。インターシップを活用し、就職に繋げる取り組みが大事だと考える。

(福本) 将来的には流れを作っていく。まずは導入を行っていく。

(小椋 様) 1 年次から就職を意識するのは大切。待遇マナーはどの業界でも必要。

文系出身者と ECC の学生は違いがある。社会福祉にも目を向けて欲しい。

## ○進学指導課より課題 3 点

### ・様々な学部での研究に対応しなければならない難しさ

例年は文系大学への進学が主流だったが、進学先も多様化しており、今年はデザイン系学部より合格者がでた。今後は非常勤講師からの情報を指導に活かしていく。

### ・キャリア以外の選択肢を広げる施策

今年度については変更ないが、2019 年度は専用スペースを設け学生の対応をしていく。

### ・大学生活になじむような先輩・後輩関係の構築について

先輩・後輩の関係の構築では、学内に卒業生を誘致し場を設けた。今後は参加者を増やしていくのが課題。

(貴治 様) 進学先の多様化とは？

(伊藤) 元々編入の受入れ先は、文系学部中心となっているが、今年度はデザイン系を志望する学生がいた。

(貴治 様) 大学へ編入後、留学を希望する学生はいるか？

(伊藤) 英語を学んでいく課程で、留学を希望する学生もいる。まずは編入指導を第一に考えているが、進学後に留学できるような下地作りはしている。

(下西 様) 進学先へ入る方はどのような方か？

(伊藤) 予備校にいた職員を中心に、今後は色々な講師が対応できるよう取り組む。

(三橋 様) 大学受験に失敗した方を対象に募集しているが、きっかけは？

(伊藤) 元々コンピュータ専門学校で大学併修をする課程があり、ニーズが高まっていると考えたため国際外語で専門の課程を設置した。現役時よりも高いレベルに進学するケースが多い。

(猿木 様) 編入制度はどのような方が利用されるのか？

(伊藤) 他の大学から別の大学へ行く学生が多い。

#### ○留学生事業部より課題 2 点

##### ・就労ビザの問題について

入国管理局への就労ビザ申請が通りやすいカリキュラムへ変更・準備を行う。専門性を強調した科目名、授業時間数を設定しビザ取得を狙う。ポイントとして専門学校で学んだ内容が活かせるかを重点としている。また、行政書士法人と連携して取り組んでいく。

##### ・日本人との交流機会の充実について

月毎にイベントを企画し交流を図っているが、イベント時の集客はあるものの普段の参加者は減少傾向。今後はプロデュース化し、より魅力的なイベント実施に取り組んでいく予定。

(貴治 様) 月ごとのイベントは充実しているよう感じるが、日々の取り組みは？

(川添) テーマ毎にフリークの場を設けている。しかしながら日本人の集まりが悪い。単発イベントであれば集めやすい傾向にある。

(貴治 様) 魅力的なイベントとは？

(川添) 検討中。

(下西 様) 就労ビザについて、授業時間数も関係あるのか？

(川添) 就労時に行う職種とその職種に関連する科目学習時間のバランス、比率は申請の際、ポイントとなっている。現在デザイン系や観光系など複数の課程を用意している。

- (三橋 様) アジア圏以外の、留学生の誘致はどうしているのか？
- (木村) 5カ国には直接現地まで募集に行っており、それ以外は日本語学校から募集している。
- (三橋 様) 留学生との関わりはすごくよい経験が出来る。
- (川添) リットの部分もしっかりと今後伝えていきたいと考えている。
- (小椋 様) 留学生への奨学金制度はあるのか？
- (川添) 現状留学生への奨学金制度はないが、学費を安く設定している。
- (小椋 様) パートの運営を継続的に行う上で、チームを作り、学生でグループを作り経費を渡して活動していくとよい。学生への援助などはされているか？
- (木村) 留学生同士でサークルを作ったことはあるが、日本人を入れることが出来なかった。
- (猿木 様) 留学生と日本人学生の交流を推進する取り組みを学園全体で行っているのか？
- (木村) 学園全体で取り組んでいる。至らぬ点もあるので、今後改善していく。

### (3)2018 年度学校運営振り返り

#### ○募集状況(2019.2.17 時点)

- ・19 募集集客累計=1000 名
  - 昨年同日累計(2 月 17 日時点)=1004 名
  - 昨年同日比(2 月 17 日時点)=99.6%
- ・19 募集出願数【日本人のみ】=499 件
  - 昨年同日累計(2 月 16 日時点)=475 件
  - 昨年同日比(2 月 16 日時点)=105.0%
- ・19 募集出願数【留学生込み】=612 件
  - 昨年同日累計(2 月 16 日時点)=587 件
  - 昨年同日比(2 月 16 日時点)=104.2%

留学生専門課程は 60 名募集。現在は募集終了。入学後はビザの手続き等を行っていく。

#### ○教務課より

学生アンケート結果については、学生満足度が昨年より微増。成果に繋がりがつつあると考える。IPライコースでは航空業界への希望が入学時点で明確になっている。目的意識がはっきりしているため、学生は授業に身が入り、講師もやる気が出る。

#### ○英語課より

キャリアの問題もあり、EIP は微増だが、これ以上は増やせないと考える。

ELC での英語個別指導では学生来訪者が大幅に増加。セブ島留学は天災もあり危機管理対策が課題だが、今後も人数を増やしていきたい。英検協会から毎年 3 月に、文部科学大臣賞受賞の連絡をいただくが、今年度は昨年よりも合格者が増えているので、連続受賞の期待をしている。

#### ○進路指導課より

内定状況(2019.2.15 時点の数値)

- ・全体内定率:98.2%(内定 280 名/対象 285 名)※昨年同日 98.3%
- ・CA 職 16 名内定

CA 職の延べ内定数は 22 名で昨年と比べて倍増。CA 職人気は変わらず高く、教育の成果が出ている。ELC の活用など英語課との連携が深まり、英語力も上がっている。それが、質の高い入学生にも繋がっていると感じる。IPアウト需要により求人数が増えたことも一因であるが、早期活動、早期内定の流れが確立できている。それに伴い 2 年次後期は学業に注力できる流れが確立されてきた。課題としては学生の資質などが多様化しているため、より学生とのコミュニケーション強化を図る必要があると感じる。

#### ○進学指導センターより

合格実績(2019.2.22 時点)

延べ 147 名合格(昨年 142 名)

国立大合格者 32 名(昨年 27) 公立大 18 名(昨年 13) 私立大 97 名(昨年最終 102)

外国語系大学への進学率も増えている。TOEIC が 400 点以上伸びた学生も 4 名おり、成果が出ている。今後は残り 5 名の指導と 2 極化対策に対応していく。

#### ○留学生事業部より

全体内定率:100%(就職内定者 33 名/就職希望者 33 名)

今春内定者の就労ビザへの切り替えに対する結果が出始めている。今年度初めて商社へ内定。母国と日本との架け橋となる道筋を築けた。近年留学生を採用したい企業が増えているため、積極的に新規求人開拓を行っていく。長期的に採用してもらえ企業との関係性を築ければと考えている。

○日本語学科・国際コミュニケーション学科より

(2019.2.22 時点)

【前期・日本語能力試験 N1】

本年度:合格 22 名 (昨年 22 名)

【後期・日本留学試験 300 点以上】

本年度:合格 40 名 (昨年 40 名)

【大学・大学院合格実績】

国立大学:13 名(昨年最終 19 名)

関関同立:28 名(昨年最終 22 名)

国立大学院:14 名(昨年最終 23 名)

私立大学院:21 名(昨年最終 24 名)

大学の入学定員問題があり、少し苦戦した。現在も国公立試験、大学院受験は続いているので、昨年と近い数字がでると考えている。

(貴治 様) 大学生など具体的な目的無く入る学生も多い中、編入は自分を見つめる時間があり、そういう意味ではよいことだと感じる。留学生の活躍の場としては、今後の光〴〵、万博開催が追い風になっていると考える。

(下西 様) 語学学習が就職に繋がっていると感じる。

(三橋 様) 時代が変わったと感じる。編入の枠〴〵はすごくよいと感じる。

(猿木 様) 韓国人の日本企業への就職が増えていると聞いたが、どうか？

(木村) 実際韓国では失業率が高い。そのため、日本に活路を見出そうと日本語系大学等に進学したり、日本語力がある方は実際に就職I-ジエトを通して活動している。

#### (4)2019年度の取り組みについて

知-ガ-ンに基づき、進路に強い学校を目指している。「業界で長く活躍できる真の国際人を輩出し、進路に強い専門学校として関西No.1となる」をテーマに、進路決定が最終ゴールではなく業界で長く活躍できる人材の育成を目指す。卒業後の進路は進学・就職と2つあるが、どちらも語学の出来る人材輩出を目指している。学生の英語力向上の取り組みについては、GEC(学園英語力強化推進センター)を設立し、学園全体で英語力の強化に取り組んでいく。また人間力向上に向けてはボランティアを経験してもらいたいと考えている。HPでも公表しているが、社会福祉活動により積極的に取り組んでいきたいと考えている。その他、教員の就業力アップを集約し連携・強化を図るとともに、教職員へは研修を推奨していく。3年制コース開発にも積極的に取り組んでいく。

(貴治 様) 多様な取り組みをしていると感じる。特に人間力向上はとても大事だと考えており、社会貢献活動を留学生と日本人の交流の場にするなど工夫するとさらに可能性が広がると感じる。

(下西 様) 教職員間でのコミュニケーションは大事。働きやすさは凄く大事だと考える。

(三橋 様) 教職員への研修内容とは?具体的には?

(瀧山) クラス運営、学生指導、保護者対応などの対策研修を考えている。

(三橋 様) 定年制はあるのか?

(瀧山) 60歳と定めている。

(小椋 様) 社会貢献活動をメディアなどを活用して社会へ発信していけばよいと感じる。

(猿木 様) ECCの生徒には地域貢献活動でいつもお世話になっている。

(塩谷 様) 英語力の伸びに魅力を感じている。今後も期待したい。

#### (5)総括・閉会挨拶

専門力の分野に関する取り組みにおいて、2018年度はサービス接遇検定において、サービス技能検定協会より文部科学大臣賞を受賞。今後は英語力に専門力と人間力を上手く掛け合わせていきたい。特にボランティア活動など、大学生に負けないくらいの経験をして、社会経験を積み、長く社会で活躍できる人材を輩出していきたい。